記者発表資料

平成３０年　１月２５日
国土交通省東北地方整備局
東日本高速道路(株)東北支社

降雪による遅れ時間を予測し、目安の所要時間を情報提供します
～東北自動車道 白河ＩＣ～仙台宮城ＩＣ で社会実験を実施～

降雪による遅れ時間を予測し、高速道路での所要時間を情報提供する社会実験を、1 月 29 日(月)から宮城県内及び福島県内のトラックドライバーの方々を対象に実施します。

○ 地域道路経済戦略研究会　東北地方研究会では、学識者の方々や関係機関と連携し、東北地方における道路交通の円滑化を目的に、ETC2.0 などのビッグデータの活用による、管理の高度化、情報提供のあり方等について検討を進めています。

○ その取り組みの1つとして、ETC2.0 などのビッグデータを活用した過去の所要時間データ、過去の時間降雪量データ、24 時間先までの予測降雪量に基づき、降雪による遅れ時間を予測し、トラックドライバーの方々に目安の所要時間を情報提供することで冬期の安全・安心・円滑な移動を支援する社会実験を実施します。

＜社会実験概要＞

・実 験 期 間:平成 30 年1月 29 日(月)～2 月 28 日(水)
・実 験 区 間:東北自動車道 白河IC～仙台宮城IC
・実 験 参 加 者:宮城県内・福島県内の運送会社のトラックドライバーの方々
・実 験 内 容:降雪による遅れ時間を考慮した所要時間を予測し、ウェブサイトにて情報提供します。

〈発表記者会:宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

＜問い合わせ先＞
国土交通省 東北地方整備局 道路部 道路計画第二課　課長　赤森(あかもり) 充(みつる)
TEL022－225－2171(代表)（内線4251）

降雪予測に応じた所要時間情報提供の社会実験 概要

これまでは、降雪予測情報は提供されていましたが、降雪による遅れ時間を考慮した所要時間は提供されていませんでした。

⇨ ETC2.0などのビックデータを活用した過去の所要時間データ、過去の時間降雪量データ、24時間先までの予測降雪量から、降雪による遅れ時間を予測し、トラックドライバーの方々に目安の所要時間を情報提供することで、冬期の安全・安心・円滑な移動を支援します。

社会実験概要

○実験期間　：平成30年1月29日（月）
～2月28日（水）

○実験区間　：　東北自動車道
白河IC～仙台宮城IC

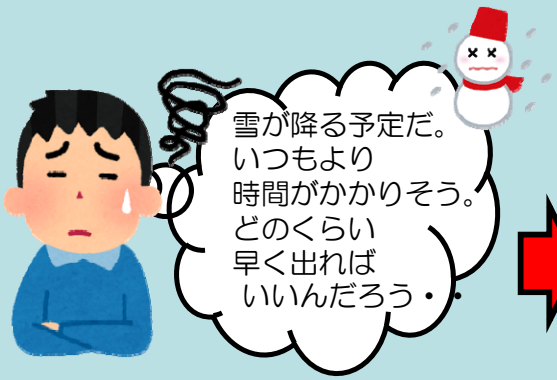
○実験参加者　：
宮城県・福島県内の運送会社
のトラックドライバーの方々

○実験主体：地域道路経済戦略研究会
東北地方研究会

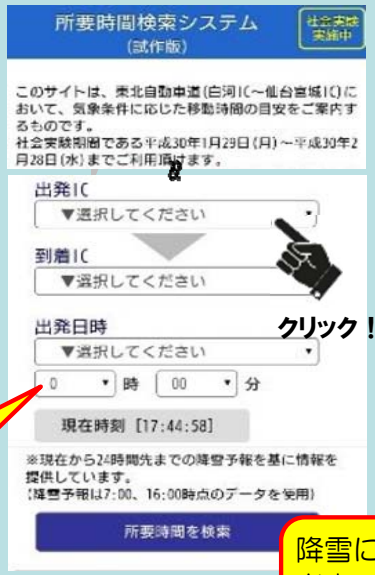
○主な検証項目　：
・情報提供による移動支援の効果
・提供時間の精度
・情報提供システムの操作性

降雪による遅れ時間を考慮した所要時間の情報提供

① 出発前



② 専用サイトにアクセス。走行区間と出発日時を入力。



クリック！！

24時間先までの検索が可能です

③ 到着目安時刻・所要時間を確認。



降雪による遅れを考慮した到着時刻・所要時間を表示

④ 余裕をもって出発！！



※社会実験として特定のトラックドライバーの方々に限定して情報提供しています。
一般の方はご利用出来ません。

参 考

地域道路経済戦略研究会　東北地方研究会

≪　委員名簿　≫

桑原　雅夫　　東北大学大学院情報科学研究科　教授

菊池　輝　　東北工業大学工学部都市マネジメント学科　教授

原　祐輔　　東京大学大学院工学系研究科　助教

東日本高速道路株式会社　東北支社

総合企画部　総合企画課長

管理事業部　交通技術課長

国土交通省　東北地方整備局　道路部

道路部　道路計画第一課長

道路計画第二課長

道路管理課長

交通対策課長